

しょうをつんでだいとなす

積小為大



豊川市立東部小学校
校長室だより
令和3年1月号

あけましておめでとうございます

新しい年を迎えました。今年もよろしくお願いたします。世の中は、未だに新型コロナウイルス感染症対応の出口が見えず、再び「緊急事態宣言」が出される状況ですが、それでもこの一年が平穏なものになり、東部小学校の児童生徒、ご家族、校区の全ての人々、日本中、世界中の人々に、明るく素晴らしい年になることを願ってやみません。

令和三年は丑年ということで、始業式の校長講話では牛にまつわる話をしました。

「牛頭天王」

京都八坂神社の祭神は「素戔鳴尊（スサノオノミコト）」ですが、明治以前は「牛頭天王」（ゴズテンノウ）という祇園精舎の守り神であったこと。京都の祇園祭の起源は、疫病退散を願って牛頭天王を祀ったことであり、昔から、疫病（感染症）は人間にとって恐怖の存在で、神仏を祀って無病息災を願ってきたこと。（全国の素戔鳴神社、進雄神社、祇園社、天王社のルーツでもあります。）

「天神様（天満宮）には、なぜ、牛がいるのか」

京都北野天満宮にも、太宰府天満宮にも、その他の全国の天満宮の境内には牛の像があって、皆さん撫でています。天神様（菅原道真）と牛との関係を紹介しました。

「牛久保はなぜ牛久保という名なのか」

「牧野町」を起源とする牧野氏は、牧野城から瀬木城、一色城、牛久保城へと移り、「常在戦場」や「米百俵」で有名な越後長岡の藩主となりました。ところで牛久保はどうして「牛久保」というのでしょうか。以前はとこさぶ（常寒、常荒、常左府）と呼ばれていた地でしたが、金色清水の前の水たまりに牛が寝そべて通行の邪魔になっていた時、牧野の殿様が通ろうとしたら、牛がさっと道を譲ったことを慶事とし、この地を「牛窟」と名付け、その後久しく保つという意味をこめて「牛久保」としたとのことです。（そこにあったのも天王社で、祭神は牛頭天王でした。）

小学生には少し難しい話ではありましたが、写真を見せつつ、分かりやすく話しました。



最後に、牛にまつわることわざ「牛も千里、馬も千里」を紹介し、「早くても遅くても、上手でも下手でも、行きつく結果は同じなので、慌てずこつこつと目標に向かって一步一步努力を重ねましょう。」と呼びかけました。

令和3年度の行事予定の見通し

関東の4都県に加え、1月14日から2月7日まで、愛知県を含む7府県にも緊急事態宣言が出されました。学校の休校措置はありませんが、授業や学校生活での感染症対策は、気を引き締めて、確実な対応をしております。また、卒業式などの本年度中の行事につきましては、十分な感染対策をした上で、可能な方法で実施したいと計画しています。

今後、状況によって変わる可能性もありますが、現時点での令和3年度の、主な予定を掲載します。

- 4月 7日（木）入学式・始業式
- 4月15日（木）退任式
- 4月24日（土）PTA総会
- 7月20日（火）1学期終業式
- 9月 1日（水）2学期始業式
- 9月25日（土）運動会
- 11月13日（土）学習発表会
- 12月23日（木）2学期終業式
- 1月 7日（金）3学期始業式
- 3月18日（金）卒業式
- 3月24日（木）修了式

文責（校長 金澤哲哉）